

アイリスイエロースポットウイルス (IYSV) と キク茎えそウイルス (CSNV) の発生

山本英樹

1. ねらい

2007年8月、県北と県中央の各1カ所でトルコギキョウのえそ症状が、また、同年10、11月、それぞれ県北、県南の各1カ所でキクのえそ症状が問題になった。そこで、病原を特定し、防除対策を立てる。

2. 試験方法

(1) 病原の特定：持ち込まれた株の症状の観察、生物検定、遺伝子診断法により病原を特定した。

(2) 発病状況調査：現地で目視による観察、聞き取り調査を行った。

3. 結果及び考察

(1) トルコギキョウのえそ症状

1) 症状：葉に白色のえそ斑が散在した。大きめの病斑には輪紋が観察された。また、えそ斑が同心円状に配置している場合もあった(図1)。

2) 病原：症状および生物検定の結果からアザミウマ媒介性のウイルスによる病害が疑われ、遺伝子診断の結果、アイリスイエロースポットウイルス (IYSV) が検出された。

IYSVは1996年に千葉県(アルストロメリア)で国内初確認されたウイルスで、西日本を中心に問題になっている。また、県内で普遍的に発生するネギアザミウマが媒介する。

3) 発生状況：県北の農家；ハウス内の4割程度のトルコギキョウがえそ症状を呈していた。隣接する家庭菜園のタマネギに紡錘状の白斑、ハウス周辺に植えていたアルストロメリアの葉にえそ、茎に楕円形の白斑、ヘメロカリスの葉に白斑が観察され(図2)、何れからもIYSVが検出された。聞き取りから、アルストロメリアかヘメロカリスが伝染源となり、7月下旬に大発生したアザミウマが伝搬し、トルコギキョウ、タマネギが感染したと推測された。

県中央の農家；抜き取りによりトルコギキョウの発病株は確認されなかったが、隣接する家庭菜園のネギで発病が確認され

た。

4) 防除対策：媒介虫のネギアザミウマの防除と伝染源となる発病株の処分を指導した。

(2) キクのえそ症状

1) 症状：葉にえそや輪紋が、茎のえそ条斑が観察された(図3)。

2) 病原：症状からアザミウマ媒介性のウイルスによる病害が疑われ、遺伝子診断の結果、キク茎えそウイルス (CSNV) が検出された。

CSNVは2006年、広島県で国内初確認されたばかりの新規進入ウイルスで、2007年には、栃木、千葉、群馬で相次いで発生が確認されている。難防除害虫であるミカンキイロアザミウマが媒介する。

3) 発生状況：県北農家では全面的に発生した品種について栽培をとりやめ、全株処分した。県南農家でも品種によっては全面的に発生したため、7割程度が出荷できなかった。

4) 防除対策：媒介虫のミカンキイロアザミウマの防除と発生株の処分を指導した。

4. まとめ

2007年、アザミウマ媒介性のIYSVとCSNVの発生を本県で初めて確認した。IYSVは県内に普遍的に発生するネギアザミウマが、またCSNVは難防除のミカンキイロアザミウマが媒介するため、今後も両病害の発生に注意が必要である。発病株の早期発見に努め、抜き取り処分とアザミウマの防除を徹底する。



図1 トルコギキョウのえそ症状



図2 IYSVによるアルストロメリア（左上）、ヘメロカリス（左下）、
タマネギ（右）のえそ症状



図3 キクの葉のえそ、輪紋症状（左）、茎のえそ条斑（右）